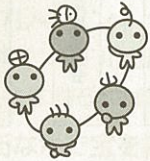


## 特定非営利活動法人 環境パートナーシップいわて が発足しました



「環境パートナーシップいわて」は変わります！  
～NPO特定非営利活動法人となって～

代表理事 村井 宏

地球・地域の環境保全の活動は、市民、事業者、行政はもとより各種の環境保全団体などが一体となって推進することが、より効果的でありそれを繋ぎ支える組織が必要という認識に立って、私たちの団体は地域の要請に応え2年前の平成14年9月に発足しました。

この2年間振り返って、行政や地域の皆様のご協力を戴いてそれなりに努力し活動を展開して参りましたが、その成果は残念ながらご期待に十分に答えられたとは申せません。この間の活動を通じて、それぞれ価値観の異なる団体や人びととの意見を集約し、共有する理念を目標に行動することの難しさを、いろいろと感じさせられました。

しかし、当初多くの方々の発起によって成立したこのパートナーシップの活動を、ここで停滞することは許されないことを役員一同自覚しておりました。それと地球温暖化問題をはじめとして、地域の身近な環境条件の低下を考えると、活動の推進が一層期待されつつあると認識もいたしました。このような思いをもとに、活動をより活発化し社会的責任を負う覚悟でNPO法人化の申請をし、このほど正式に岩手県から認可されたのです。

私たちの活動内容は、組織の変化によってこれまでの「中間支援団体という基本的な方針」は動かないとしても、組織・責任体制を含め行動面で変化が求められるものと考えられます。たとえば、行政が考えている環境施策をバックアップすることも大切ですが、各地域レベルの環境活動を地域の人々と手を携え、課題を発見し推進していくことが重視されます。幸い新たに多才にして気鋭なスタッフも参加され気を強くしております。

法人化によって、行政や企業と協働する機会がより増えると思いますが、同時に活動資金としてお金と関わり合うことも多くなるでしょう。活動を強化するためには、会費だけではまかなえないので、資金調達は必須のものとなります。協賛をお願いする場合には、基本的には対等な関係でのタイアップ、すなわち、真のパートナーシップという関係を維持していく心構えを忘れてならないと思います。それと当然のことですが経費管理等については、より透明に内部外部から見ても整然と説明できる責任があります。

これまでの活動は、どちらかといえば盛岡などの都市地域が中心となっていました。これからは積極的に地方の市町村域の活動グループと連携し、環境保全活動を支援するとともに、独自のイベント等を通じ地域振興にも役立つような展開を図りたいものです。環境保全の活動は、正義感、義務感、未来像などを念頭にして難しい形で取り組みがちであり、仲間同士の会議でも硬い議論が多いのですが、活動しながら楽しい、参加して面白く、ためになるといったことが、少しでも感じられるように努め運営していきたいものです。

これからは、「環境保全は一人ひとりが自分でやらなければならないこと」、同時に「一人でするよりもみんなで力を合わせる方がより大切なこと」とされております。私たちの会も、当然ながら代表のリーダーシップのもと、役員が一丸となり活動の推進力となること、あわせて会員皆様とより密接なコミュニケーションを深め、全員参加型となる流れができればと思っております。『安全で安心感の抱ける豊かな地域環境の創造と持続』を目指して努力いたしますので、どうぞよろしくご鞭撻とご協力をお願い申し上げます。

### ■村井 宏 プロフィール

農学博士、技術士（森林土木）、環境カウンセラー

1929年 盛岡市生まれ

1925～1978年 農林省林業試験場（現森林総合研究所）において森林防災研究に従事

1979～1990年 静岡大学農学部教授（森林防災工学担当）

1991～1995年 岩手大学大学院連合農学研究科教授（自然環境保全学担当）

1995年3月 岩手大学定年退官

現在：（社）東北地域環境計画研究会会長、特定非営利活動法人 環境パートナーシップいわて代表理事、吉林農業大学・江西财经大学客員教授（中国）、盛岡市水道水源保全審議会会長ほか

主な著書：「ブナ林の自然環境と保全」、「自然林の復元」、「環境緑化学」など

受賞：日本林学会賞、日本緑化学会賞、岩手日報文化賞、地域環境功績者表彰（県・環境省）





# 第1回理事会が開催されました

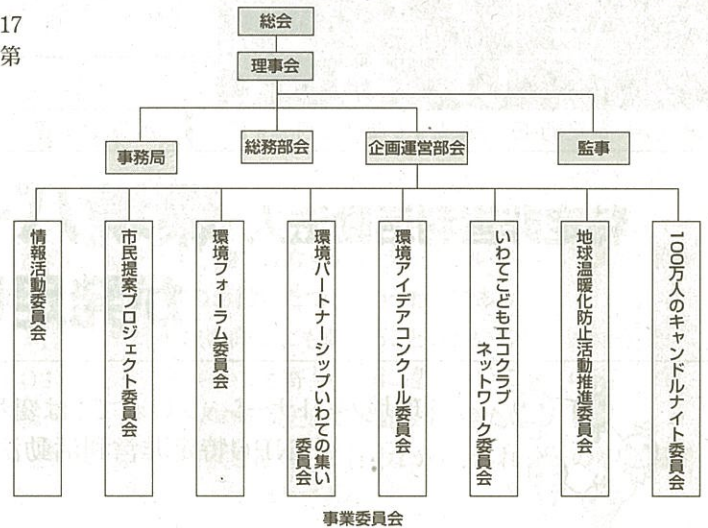
日時:2004年12月12日(日) 16:00～ 場所:岩手労働福祉会館

特定非営利活動法人環境パートナーシップいわての第1回理事会が、17人の出席のもと開催されました。平成16年度の事業計画の確認がされ、第2回通常総会は平成17年6月26日(日) 13:30～に決定しました。

NPO法人環境パートナーシップいわて理事 代表理事 村井 宏 環境カウンセラー

副代表理事	櫻井 則彰	岩手自然ガイド協会設立準備会代表
梶原 昌五	岩手大学・環境情報ネットワーク研究会	佐々木 明宏 (有)アウスレーベン研究所
渡辺 彰子	環境アドバイザー・地球温暖化防止活動推進員	菅原 悦造 NTT東日本(株)岩手支店ISO環境推進担当
理事	長澤 幹	環境カウンセラー・地球温暖化防止活動推進員
泉山 博直	環境アドバイザー・いわいずみ子どもエコクラブ	東 優子 岩手町立小川中学校教員
内田 尚宏	環境アドバイザー・川と森のクラブ代表	広野 カツ子 消費生活アドバイザー
梅野 克雄	環境アドバイザー・地球温暖化防止活動推進員	向井田 岳 刈屋建設株式会社
上野 カナエ	うわのリンゴ園	山田 一裕 岩手県立大学・環境カウンセラー
上野 幸子	宮古市立第一中学校教諭	監 事
川村 晃寛	環境アドバイザー	遠藤 保仁 いわて銀河系環境ネットワーク副会長
小赤澤 直子	夢工房ハンドメイドキャロット	大石 文子 東和町町民総務課

特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて組織図



## 本会に期待されるもの

理事/企画運営部会長 内田 尚宏

わずか7、8年前までは、環境保全を訴えると変人扱いされたものです。役所や企業と喧嘩になることもよくあり、環境には“対立の構図”が付きまとっていました。

さて、NPO法人となった本会に期待されるものを考えたとき、まず私が願うのは、あの不幸な対立の時代に時を戻さないように努めることです。——対立からは何も生まれませんでした—— 地域住民が自ら動き、行政が後からついて来るような住民リードの活動から、自然と共生した地域がつくられて行くように思います。

PS 会員の皆さん、NPOの存続には自立と挑戦が必要です。自活につながる(楽しい)事業案をどしどしお寄せください。まず各事業委員会に参加し、実際の行動に結び付けていきましょう。事業委員会への参加については、事務局までお申し込みください。

## 新・理事プロフィール



■氏名:泉山 博直

■所属:いわいずみ子どもエコクラブ(代表世話人)

■プロフィール:

岩泉に流れ着いて30年、子どもたちと遊んで20年、自然に目をむけて15年、子どもエコクラブを始めて10年。根っからの環境人ではありませんが、子どもたちと遊んでいるうちに、いつの間にかはまっていました。自然はいいですね。数学や物理では、いろんな人と仲良くなることはできませんが、春には野草や山菜、夏には星やホタル、秋にはキノコ、冬には野鳥、時々話題にたくさんの方が耳を傾けてくれます。もちろん、子どもたちは耳を傾けるなんてしません。しませんが、知らないうちに、鳥や虫や花、星・風・雲、山川・海の体験の記憶が、幾重にも積み重なっていき、一つの「原風景」を形作るはず。それら、たくさん思い出と一緒に、私の想いも少しは伝わるのではないかな。そう思いながら遊んでいます。

■その他コメント:

システム論でいえば、環境とはそのシステムが一方的に影響を受け、相手に対してほとんど影響を与えられないような条件を言うのでしたか(うろ覚え)。かつて、気象は人間に対する絶対的な「環境」でしたが、今は気象にすら影響を与え始め、地球上の生命にとって人間は絶対的な環境一つになりつつあります。環境の変化から身を守る術は必要ですが、負のフィードバックに陥らないよう願うだけです。



■氏名:川村 晃寛

■所属:いわて森林インストラクター会/環境アドバイザー

■プロフィール:

学生時代から野山をフィールドに研究、仕事、遊びを行ってきました。ゼネコンに10年勤め、技術者として日本各地の現場に携わり、7年前から地元岩手で活動しています。「公共事業=悪」の図式が変わりつつある今だからこそ、人と自然の関わり合いにおいて原点に立ち返って考えたいと思っています。

■その他コメント:

少子化が進む中、これからの岩手の環境を担う子どもたちへの働きかけが、最も大切であると認識しています。また環境を守りそれを次世代に繋いでいくためには、正しい知識が必要だと考えています。まず、子どもたちを家から野山に連れ出すこと、教えるのではなく自由に遊ばせ、考えさせること。これをモットーに身近な活動をやっていきたくて考えています。



■氏名:佐々木 明宏

■所属:有限会社アウスレーベン研究所  
いわて環境マネジメント・フォーラム

■プロフィール/コメント:

学生時代に自主ゼミとしてエコロジーゼミを続けて来ました。センスオブワンダーを大事にして子ども達のそばにいたいと思っています。

環境パートナーシップいわて設立時に事務局として関わり、今回理事に就任いたしました。今後は会員参加企画の提案や事務局の支援で関わって行きたいと思っています。会議も大事ですが、連携を基軸とした行動する集まりであって欲しいと願っております。



# いわて環境フォーラム2004in釜石 が大盛会のうちに開催されました!

海と緑と太陽のエコミュージアム  
～自然と人・共に生きる道を探して～

# いわて環境フォーラム 2004in 釜石

プログラム

## 第1日目 11月13日(土)

▶ **イベント** 県職員と一緒に地域清掃活動 8:00～10:00

場所: 甲子川右岸市道 (株式会社佐々長建設 資材置場内駐車場 集合)

～主催: 釜石地方振興局保健福祉環境部 共催: 礼ケ口町内会、向定内町内会

▶ **街なかで宝を探そう! スカベンジャーハント**

～子どもエコクラブ・サポーターズ・ミーティング 8:00～10:30

場所: シープラザ釜石前集合～青葉通り (アースレンジャーかまいし)

▶ **フォーラム主会場: 釜石シープラザ遊**

▶ **開場** 10:00～

▶ **虎舞** 10:30～

・虎舞 釜石虎舞保存連合会

▶ **開会行事** 10:50～11:00

▶ **基調講演** 11:00～12:30

「地球にやさしくらし方」

赤星 たみこさん 漫画家

▶ **みんなの舞台—私のパフォーマンス—** 12:30～13:30

リフォームファッションショー/スカベンジャーハント表彰式

▶ **事例発表「私たちのまちから発信!」** 13:30～14:00

・フォーラム～みんなでつなごう森・川・海～(盛岡市)  
・小鉾森林愛護少年団(大槌町)  
・釜石ホテル友の会(釜石市)

▶ **「山(森)・川・海ジョイントアクション」** 14:00～15:00

出演予定 地元小学生、和美東(わびと)一和楽器による演奏



**鳥の先生**  
呉地正行(日本鳥を保護する会会長)  
「渡り鳥のお話」  
スライドとお話



**トンボの先生**  
菊池利明(インセクトサークル)  
「釜石のトンボ」  
スライドとお話



**川遊びの先生**  
内田尚宏(環境パートナーシップいわて)  
「遊びから見えてくる環境」  
ビデオとお話

▶ **環境バンド演奏** 15:20～16:00

・環境バンド Cry Babies / SUPER SONICS!!

▶ **「美味しさ見つけた! 地域食材コーナー」**

鮭のすりみ汁/五目ふかし/なます

▶ **展示・体験コーナー** 10:00～16:00

石村工業(株) / (有)エイゼン建工 / (株)エイワ / SMC(株) / 廃プラ協同組合 / (株)新日鐵 / (株)大和化成 / (株)野館産業 / 協同組合  
岩手オートリサイクルセンター / 釜石南高等学校 / 釜石市環境課 / 大槌町町民生活課 / 動物いのちの会いわて / エコミッションの会 / いわて生協 / 岩手県水産技術センター / トヨタ / 子どもエコクラブ(アースレンジャーかまいし / 松倉げんキッズ) / 環境パートナーシップいわて / いわて森林インストラクター会 / フォーラム～みんなでつなごう森・川・海～ / (財)岩手県環境保健研究センター / 盛岡農業高等学校 / 全国地球温暖化防止活動推進センター / おもちゃ病院(たばしね学園) / (独)緑資源機構 / リフォームファッションショー

▶ **フリーマーケット** 10:00～16:00

▶ **第2会場: シープラザ釜石 2F アイデアフロア**

▶ **「三陸の環境問題をパートナーシップで一緒に考えよう」**

～岩手県環境基本計画 市民提案プロジェクト 13:15～14:15

市民提案プロジェクトでは、釜石の環境問題について、誰でも参加でき、誰でもが意見を言い、誰でもが聞ける会を開催します。

▶ **展示・体験コーナー** 10:00～16:00

釜石市エコミュージアム事業の紹介/全国地球温暖化防止活動推進センター

▶ **したつづみやど 舌鼓市場 宝来館** 釜石鶏住居町20-93-18 TEL 0193-28-2526

▶ **環境フォーラム交流・懇親会** 18:00～

## 第2日目 11月14日(日)

▶ **エクスカージョン** 8:30～13:00

8:30 宝来館 発

8:50 ひよっこりひょうたん島 着

テレビ人形劇の「ひよっこりひょうたん島」のモデル

9:50 ひよっこりひょうたん島 発

10:00 鮭の遡上視察

10:40 イトヨの生息地視察

11:30 新山風力発電施設、「ゆうなっ子」の森視察

13:00 視察終了





## ■イベント 県職員と一緒に地域清掃活動

「川沿いに不法投棄されたゴミを片付けよう！」という県職員の呼び掛けに普段清掃活動をしている町内会をはじめ地域住民が賛同、総勢100名が人が集結しました。企業も加わり、トラックやジープを出していただきました。おかげでものすごい量のゴミを拾うことができただけでなく、県職員と住民の“協働”が実現しました。

## ■街なかで宝を探そう！スカベンジャーハント

快晴の朝8時に、釜石駅隣の「釜石シープラザ遊」をスタート！こどもエコクラブ「アースレンジャーかまいし」「松倉げんキッズ」のみんなやそのお友達・家族がたくさん参加してくれました。駅前周辺の地図と問題用紙を手に約2時間の宝探しです。頭も体も使う楽しい問題がそこら中にちりばめられていました。



少し風はあったものの、秋晴れの空の下で朝の清々しい空気を吸いながら、仲良しと・家族とおしゃべりしながら探検歩きをしたことで、「いつもの釜石」が「ちょっと特別な私の釜石」に見えるようになったのではないのでしょうか。

## ■開会行事



まず、環境パートナーシップいわての村井宏代表が挨拶し、「このフォーラムを通じて自然との共生を考え、語り合ってほしい。想像的且つ持続性を持ってフォーラムを締めくくりたい」と述べました。



続いて佐々木茂釜石振興局長は「このフォーラムが、釜石・大槌がさらに『環境と調和した産業』の町として発展するきっかけになれば」と挨拶しました。

## ■基調講演「地球にやさしく暮らし方」



漫画家の赤星たみこさんが講演を行いました。赤星さんは「省エネや環境問題は楽しく取り組むことで参加の輪が広がる」と指摘。ゴミ減量のアイデアや洗濯用粉せっけんをぬるま湯に溶かした「とろとろせっけん」など日常生活で実践している取り組み、生活の知恵を紹介しました。掃除機を取り付けたリュックサックの紹介ではご主人が掃除機を背負って登場、実演しました。

最後に「釜石の海、山、川の豊かな自然を守り続ける『心美人』を目指そう」と呼び掛けました。



## ■みんなの舞台—私のパフォーマンス—

### リフォームファッションショー

運営委員の小赤澤直子さんによる着物や大漁旗などを使ったリフォームファッションショーが行われました。皆さん舞台慣れしていますね！



### スカベンジャーハント表彰式

表彰の舞台に上がったのは、アースレンジャーかまいしのサポーターで今回の問題も作成してくださった加藤直子さん。ステキな大漁旗リメイク衣装で登場し「みなさんよくがんばりました！」と総評を述べてくださいました。残念ながら全問正解できたグループはいませんでした。1位から3位までかなりの優秀成績の接戦でした！



## ■事例発表「私たちのまちから発信！」

### フォーラム～みんなでつなごう森・川・海～



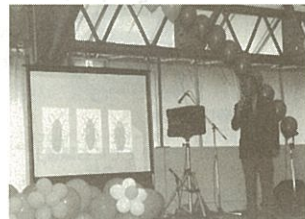
環境パートナーシップいわてが企画運営した、7月25日の体験型フォーラムについて理事の内田尚宏さんが報告しました。

### 小鮎森林愛護少年団



団員である小鮎小学校全校児童の代表として、団長の東海和輝君が水生生物調査活動「小鮎川探検」について発表し、「森と海をつなぐ川の住民として自然を大切にしたい」と話しました。

### 釜石ホテル友の会



事務局の白澤良一さんがホテルが自生する環境を復元した取り組みを紹介し、「夏の風物詩であるホテルの棲める水辺環境づくりの輪を広げて行きましょう。」と呼びかけました。

## ■「山（森）・川・海ジョイントアクション」



“見つけてみよう！山と川と海のつながり”をテーマに子どもたちと一緒に自然のつながりを探してみました。鳥の先生（呉地正行さん）とトンボの先生（菊池利明さん）、



川遊びの先生（内田尚宏）がお話しました。

また、和美東（わびと）が和楽器による演奏をしました。

### ■環境バンド演奏

昨年4週にわたり、岩手県内の民放4局をリレーした番組「明日のブドリたちへ〜まずボくらが踏み出そう、未来への一歩〜」で「Earth-Aid LIVE」に関わった、「Cry Babiez」と「SUPER SONICS!!」の2組がライブを行いました。



▲Cry Babiez



▲SUPER SONICS!!

### ■美味しさ見つけた！地域食材コーナー



釜石市食生活改善推進員協議会の皆さんにより、釜石地方の郷土料理「五目ぶかし」「鮭のすりみ汁」や「なます」が振る舞われました。寒い会場だったこともあり、大変喜ばれました。

### ■展示・体験コーナー



市民団体や事業者、行政が日頃の活動をパネル展示などで紹介しました。盛岡農業高校では稀少植物のバイオ研究が体験できました。いわて森林インストラクター会では松ぼっくりでクリスマスツリーを作るコーナーなどが設けられました。岩手県環境保健研究センターのブースでは、自動車発電を体験できました。他にも会場を訪れた子供達はクイズやスタンプラリーに参加し、楽しんだようでした。



### ■フリーマーケット



寒い会場でしたが、6店の出店がありました。そのうち動物いのちの会いわてでは売り上げを募金にしていました。来場者からは「にぎやかで良かった」という感想も聞かれました。

### ■「三陸の環境問題をパートナーシップで一緒に考えよう」

副代表理事である梶原昌五さんが司会、提案を務め釜石の環境問題について話し合われました。参加者はテーマごとに4つのグループに別れ、ゴミ問題や山・川・海の環境保全、環境問題への取り組みなど積極的に意見を提案していました。



### ■エクスカージョン

#### ひよっこりひょうたん島



NHKテレビ人形劇「ひよっこりひょうたん島」のモデルとなった「蓬莱島」を視察しました。ガイドの阿部平治さんから蓬莱島の由来や伝説の説明を受け、弁天様のご神体や石碑などを見学しました。島は手入れが行き届いており、住民の海を保全する取り組みを視察できました。

#### 鮭の遡上視察

ガイドの岩間さんの説明を受け、鮭の遡上の様子を見学しました。餌や水の汚染などの影響で鮭は年々減少していると言います。また、孵化を人工的に行ったことで生態系が変わってしまったという説明を受け、自然保護の難しさを感じました。



#### イトヨの生息地視察



貴重な淡水型イトヨの生息地を視察しました。西沢さんにイトヨの生態や湧水環境、大槌町での取り組みなどについてお話を伺い、大きな水循環を視野に入れた保全活動を展開していることを知りました。

#### 新山風力発電施設、「ゆうなっ子」の森視察



「ゆうなっ子」の森とは海を豊かにし、鮭の遡上を願ってボランティアによって作られた植樹の山です。「ゆうなっ子」とは鮭の稚魚の泳ぐ姿を呼ぶ方言で、「海と川と山」の密接な関係を再認識しました。また、釜石広域風力発電は自然環境を生かした地球にやさしい風力活用として、今後成果が期待されます。



いわて環境フォーラム次回開催地が「水沢」に決まりました！



第1回リーダー養成講座

『市民参加による環境問題解決の方法を学ぶ』  
が開催されました。



笹谷 康之氏

日 時：平成16年10月16日（土）・17日（日）  
会 場：国立岩手山青年の家（テンパーク）  
講 師：笹谷 康之氏（京のアジェンダ21フォーラム）  
内 容：市民参加について一緒に考える講演及びワークショップ

講演「市民と事業者と行政の協働事例」 笹谷 康之氏  
専門分野

私は景観計画が専門で、博士論文では日本の伝統的な景観を研究しました。他にも「都市と農村計画（田舎も含めた地域計画）」、「環境を考えた社会づくり（環境社会システム）」をやっています。さらに、地理学を勉強していましたので、GIS（地理情報システム、電子地図）もやっています。

最近の活動

県庁所在地の大津市の近所の山（里山）の木を使い住宅をつくる活動をしています。また、2つの小学校で環境教育を支えるようなかたちで、電子地図で地域の情報を共有する実践的な授業をしています。景観の分野では、大津で活動しています。今年の国会で景観法ができて、地域の協議会をつくり、NPOなどが棚田を整備するとか、地域のシンボルとなるような建物、その周りの道路の看板も含めた景観の整備にあたることなどができるようになります。

最近の協働パートナー

パートナーシップ組織については、私自身は京都の京アジェンダ21の常任幹事、おおつ環境フォーラムの副代表です。滋賀県の草津に、NPOや市民の活動の支援活動をやっているという民間NPOセンターのおうみNPO政策ネットワークがあり、その理事もしています。公園をつくらうなどのテーマで、学校、民間企業、いろいろな自治体と連携しながら活動しています。

持続可能な開発のしくみづくりとは

ローカルアジェンダ21は環境基本計画と地域の中で自立的な経済活動を発生させる計画とコミュニティを元気にする計画の3つを含んでいます。

市民のリーダーも必要ですし、同時に小学生から大学生まで常に学べる場が必要です。それを広げてゆくには地域から行動を起こし、地域の情報を共有して、しっかりした学習コミュニティをつくり、情報共有の基盤、プラットフォームを作ることが必要です。これがWebGISを含む地域情報プラットフォームの形成です。

市民力と地域力

景観が良くなっているのは地域力が高まっている証拠です。地域力はソーシャル・キャピタル（人間のつながり、地域活動への参加意欲、信頼関係など）、市民力はエンパワーメント（問題解決の能力）といえるでしょう。

循環型社会を支える協働

地域に元々ある大切な宝物を発掘し、いろいろな主体（市民、町内会、NPO、事業者、行政）と一緒に連携しながら、地域の情報を共有し、環境をつくってゆくのです。

21世紀は協働の時代

20世紀には工場労働者は単純作業を担当し、大量生産のシステムの中で歯車の一つにならねばなりません。造る人と使う人が完全に分かれてしまいました。昔の生活では地域に住んでいる皆で道路をつくったりしていました。ところが、昭和30年代の高度成長期から、これらのことは自治体の仕事で、国民は税金を払っているのだから何もしなくてよいというふうに変わってきま

した。1980年代頃からこのスタイルに対する批判が出てきました。現在、ネットショッピングが伸びています。ショッピングモールだけでなく、個人間の売り買いが増加しているのです。フリーマーケットも増加しています。このように販売形態は変わってきています。生産で自分にもっと合った商品を作ろうということで生産者と消費者をかねたプロシューマーが生まれています。

地球温暖化防止

2100年には1990年と比べて全地球平均気温で1.4～5.8℃上昇、海面水位で9～88cm上昇します。解決のためにはCO2排出量を6割削減しなければなりません。生産と消費が分業していて、自治体とNPOが分かれて活動しているからCO2排出量が削減できないのであって、連携する方向へ持っていかなければなりません。

ESD10と対応法制

ESD10（国連持続可能な開発のための教育の10年）ができたので環境保全活動・環境教育推進法ができました。2005年から2014年までの10年間、連携して活動しようということです。

持続可能な開発

「持続可能な開発」は経済、コミュニティ、環境の重なった開発の部分です。

パートナーシップ

異なる主体が共通の目標を実現するために、情報を共有化し、対等の立場で、公開の原則のもとで違いを認め、違いを活かして活動することが「パートナーシップ」です。

市民リーダー育成講座

2年間かけて地域のことを学ぶ宝塚女性ボードでは10年以上続いて、地域活動のリーダーが育っています。また、宝塚では100人委員会を11つ組んで環境のみならず、いろいろな活動をしています。また、市民環境大学では授業料を払ってもらって10ヶ月間20回の研修を徹底的にやります。2001年8月結成後、国土交通省の100%の補助金を使い一気に実践してゆきました。私が関わっているのはすいたシニア環境大学です。これは対象をアクティブシニア（55歳以上、熟年にさしかかり新たな人生を再スタートさせようとするシニア層）に絞った活動です。技能を持った団塊の世代が退職年齢にさしかかり、環境パートナー組織の担い手になってきます。

京都議定書

京都議定書が作られた地球温暖化防止京都会議の前年の1996年に「アジェンダ21（21世紀に向けた行動計画）」の地域版をつくるために「京のアジェンダ21」をつくりました。いろいろなテーマ（交通、ごみ問題等）について議論して持続可能な町作りを目指そうということでしたが、これは行政の計画だけではなく、事業者、市民の計画です。

京のアジェンダ21

基本方針は「京都の特性を活かした生活様式と事業活動形成」「環境と共生する物・エネルギーの循環システム形成」「環境にやさしい交通と物流システム形成」です。交通が非常に大きな問題になりました。

京(みやこ)のアジェンダ21フォーラムの組織

会員は462人います。全体の意思決定は総会ですが、日常的には幹事会で意思決定をします。また行政、事業者など八つのワーキンググループがあり、主体がいろいろありリーダーが全く違ってきます。ライフスタイル・グループでは地域女性会が実験場を提供し、地球温暖化防止のため活動している地球ネットワーク（本部 京都）が電器屋さん和組むという形で環境NGOがリーダーシップを取っています。京都工業会の中の中小企業が



グリーン購入を試みています。

### ライフスタイルワーキンググループ

省エネキャンペーン（アイデアは東京都）とKESは、ともに京都発全国へという運動です。京都の電器屋さんや大型店と組んで省エネ型冷蔵庫やエアコンへの買い換えを進めています。

交通に関しては京都の繁華街（大丸、高島屋、京都市役所などがある1キロ四方）を運行する100円循環バスを応援する活動です。自転車については100円パーキングを転用して駐輪場にする実験をしています。地下鉄が通ったので市バスが廃止された醍醐地区では、市民の会が商業施設、病院、寺院など（財源協力）と協力して醍醐コミュニティバス（運行は交通事業者へ委託）をつくりました。えこまつりワーキンググループに関しては祇園祭、さくら祭りに参加したり、保育園のバザーに協力したりしています。大学でキャンパス・エコロジーを推進する学生が始めたものですが、食器洗浄機が搭載可能な「えこまつりカー」の設計中です。自然エネルギーワーキンググループでは環境NGOが中心になって市民共同発電所や自然エネルギー学校などの活動をしています。企業活動ワーキンググループのKESは京都工業会の現役の環境委員長及び環境委員、退職したOBが中心となり、京都の中小企業の環境マネジメントシステムを支援しようという活動です。向上だけでなく、学校や旅館、ホテル（エコツーリズム）にも広げてゆこうとしています。エコミュージアム・ワーキンググループは森のまると博物館ということで大原野森林公園活動をまかされており、まると博物館づくりを進めている途中です。

### 小大連携授業「環境学習演習」

小学生が学校を出て公園や線路のガード下や新撰組で有名な壬生寺などで生き物調べをしています。大学生と小学生と一緒にやっています。大学生は小学生と一緒に授業をするときぼったり遅れたりしくくなりますし、みんなものすごく頑張ります。小学生も親や先生と違って年齢層が比較的近いので、自分の近未来を思いながら大学生に接して、面白い授業になります。

### 持続可能な開発のしくみづくり

京のアジェンダ21フォーラムではプロジェクト（事業）をやるという認識です。市民リーダーの育成については、中長期的な展望を持つ大学生と小学生の共同学習の事例を申し上げました。最後にインターネット地図も活用した地域環境学習データベースのマネジメントも重要だと申しあげて終わりたいと思います。

### ワークショップ

講演の中から関心・疑問等持った点を出し合い、各自の課題をもとにグループで共有するテーマを決めました。そしてグループごとに発表しました。

### グループ1：古さと新しさ



#### 木材資源の活用

- ・ログウッドボイラーは岩手に導入できる？
- ・ログウッドボイラーの小型が作れないか
- ・木材バイオマスの利用
- ・りんごの枝を燃やさない方法を模索
- ・大原野森林公園 案内人
- ・人口シユラの利用

#### 行政

- ・行政は信頼できない

#### 環境問題解決のアプローチ

- ・予防と修復

#### 新技術

- ・Webの活用
- ・協働⇄プラットフォーム⇄GIS
- ・GISはなぜ重要なのか？

#### 地域づくり

- ・地域に住んでいる住民が地域を見て歩く
- ・まちなかを歩く
- ・協働・やさしい交通体系
- ・修復→AP→方法論

#### 環境マネジメント

- ・KESの学校版、旅館・ホテル版はどのような規格か？規格は一つでマニュアルが準備

#### 市民参加

- ・協働
- ・環境についてパートナー会議を立ち上げ、これから？
- ・活動範囲は市町村レベル？県では大きすぎ？
- ・パートナーに参加しているのは市民のどれ位か

#### 環境教育

- ・予防→AP→モラル
- ・モラル→協働
- ・教育→臨床
- ・大学生は今、元気がない！！
- ・学校教育の変化
- ・教える人と授ける人が一緒に学ぶ
- ・大学生と小学生
- ・体験と理解 体験から意見が出てくる

### グループ2：市民力の向上に向けて



#### パートナーシップ促進への課題

##### 市民

- ・パートナーシップ 構成員それぞれの特徴を生かすこと
- ・パートナーシップとは…違いを認め、活かして活動すること。認めにくい？
- ・問題意識のなさ 情報共有の難しさ
- ・情報共有の基準作り（どれが、どうやって、いつ等）
- ・市民参加 誰が市民か？→立場で利益が反する（ステークホルダー）
- ・市民側も縦割り
- ・当事者としての自覚がない
- ・岩手ではまだまだ住民参加に対して意識が低いのでは？

##### 行政

- ・役所は働きが悪い…（イメージか？）
- ・パートナーシップを阻害する自治体職員

#### 市民力の向上

- ・計画！！「そのために」を明確に！（大学生、NPOなどパートナーシップいわた）
- ・ネットワークの良さ 限られたマンパワー NPO 互いの特徴を生かす
- ・市民力、地域力を高めるにはどうしたらいい？
- ・地域力、市民力、地域環境力を高めるには、職場、家庭、地域、NPOなど1つではない顔をもち、複数の属性により、(会社員だけ、NPO、公務員だけ、ボランティア)
- ・NPO、学生：変わらない⇄行政：時間取れる
- ・市民力を高めるためには…
- 1.興味ある人 2.大学生がキーパーソン！？

- ・スピード化（行政、市民、学校）
- ・企業はもうOK？

#### パートナーシップの事例に学ぶ

- ・全国で起こっていることが動みになる
- ・全国のパートナーシップの事例 数値目標
- ・パートナーシップを立ち上げるまでの苦勞や失敗例を話してほしい
- ・行政と市民とのパートナーシップは組みやすいが、事業者とは容易でない面がある
- 例) 包装やレジ袋など
- ・形だけではない実際の組織作り
- ・京のアジェンダができたきっかけは？どこが主体となったの？

#### 環境教育

- ・小学生と大学生のコラボレーションとても良い
- ・環境教育で子供は何を感じるのか？何を感じる、知るためにやるのか？
- ・子供の教育（頭じゃなく体験）
- ・やりっぱなしではなくふりかえりが体験になる
- ・学校が環境教育で大それたということが（親にも地域にも影響があるから）、具体的にどの様な点で影響あるのか？
- ・環境教育の場では学校は重要な所！
- ・親子が一緒になって環境学習のあり方について学びたい
- ・小・中学生に対する環境教育の重要性を感じた

#### 情報の伝え方として…

- ・（恐らく）思いは同じ対話！
- ・興味ありそうな人に口で伝えていく！！
- ・口コミ 紙では伝わる 学生パワーを使って！
- ・環境基本計画などの情報は参加する市民にどう伝えるのか？（知らない人多い）

#### 参加の機会を増やす

- ・行政で住民参加できる機会を増やし、住民と行政と一緒に成長していける環境づくりが必要
- ・行政と住民が同じテーブルに参加していく

### グループ3：21世紀の公共公益サービスを支えるには…



#### 教育

- ・小大連携授業
- ・環境教育（子どもたちの）はどんなやり方でやれるか？
- ・「総合的な学習の時間」と「学力低下」の関連性
- ・GISを導入する
- ・子どもの活動に大人がきちんと参加する

- ・パソコン・インターネットを使いすぎることの悪影響は？
- ・学校教育の問題点

#### 21世紀の公共公益サービスを支えるには…

- ・地域力と市民力一意識だけでは
- ・市民リーダー 次代の市民リーダーの育成

- ・持続可能な開発が必要
- ・21世紀の公共公益サービス
- ・景観は地域力を表す鏡
- ・市民力のワークショップ開催
- ・パートナーシップ一互いの立場も理解

- ・どの程度の意見・希望が集まれば、交通プランなど大々的なことが実現するののか
- ・協働活動の主体は誰々になるののか
- ・「21世紀は協働の時代」どうやって進めるの？

#### 納得プラン

- ・都心のエコ交通プラン導入
- ・コミュニティバスの検討
- ・NPOを支えるNPO
- ・すいたシニア環境大学一レベルの高さ
- ・ライフスタイルワーキンググループ表示ラベルの統一化
- ・京のアジェンダ21フォーラム 8つのワーキンググループ
- ・バイオマスの促進

- ・東ドイツのログウッドボイラー導入は良い？

#### 役所の壁

- ・地元有力者の意見は本当に住民の意見か？
- ・運営委員などにならない（できたものを享受するだけの）人の啓発は？
- ・パートナーシップを阻害する自治体職員の言い訳
- ・自治体職員の言い訳一理想と現実



# 「新しい時代の風を受けて」 ～市民参加と協働をめぐる対談～

齋藤 純 × 高橋 秀行

(小説家)

(岩手県立大学総合政策学部 助教授)

日時：2004年10月25日(月) 午後3時から4時30分

場所：いわてコミュニティ・ビジネス・センター まちなか来ぶらり

テーマ：環境パートナーシップと市民参加について

今、なぜ市民参加が必要とされるのでしょうか。

岩手、あるいは盛岡市ではどのような状況と言えるのでしょうかそのための道具となりうるものは何でしょうか。

専門家の役割はどのようなあり方があるのでしょうか。

高橋：いまの盛岡市の市政をみていると、市民の意見を積極的に聴く場を設けたり、市民と協働して政策をつくったり、事業を企画・実施しようとする姿勢があまり見られない。意欲のある市民がたくさんいるのに、こうした市民を市が活かしていないというのは残念だ。

齋藤：市役所や市民も慣れていない不満を言うよりも、活動を展開させよう。

高橋：まずは参加に先立ち、市民、行政がお互いに言いたいことを言い合う場を設ける必要がある。

齋藤：行政がパブリックコメント（行政が案をつくった後、一定期間中に募集する市民からの声）を募集しても、市民は言っても無駄だとあきらめている。

高橋：将来のまちのコンセプトは議論しあわないと市民と行政が共有できない。現在、盛岡市は新しい基本構想を策定中だが、行政が素案をつくってパブリック・コメント手続にかけるのが唯一の市民参加というのでは情けない。内容面でも市民参加や協働の推進に関する踏み込んだ規定がない。

齋藤：市民参加・市民主導で基本構想や基本計画をつくった事例はあるのか？

高橋：基本構想の策定段階での市民参加は当たり前になっている。東京の三鷹市では375人の市民が集まり、10分科会にわかれて総合計画に対する市民提言をまとめた。東京の日野市も総合計画を市民・行政の協働で作上げた。盛岡でも、やればできるのではないか。

齋藤：市民が待っていても行政からは市民参加型の基本構想の策定に関して声はかかってこない。行政のトップダウンの状態、市民主導型で促さないと定着が難しい。

高橋：そのとおり。策定中の新総合計画をチャンスと考え、行政ももっと積極的な市民参加の場を考えて欲しい。もちろん、市民側も声をあげていくべきだが、まずは行政が市民に対し開かれたものに変わる必要がある。

齋藤：市民、行政に市民参加の意識がようやく根付いてきた。

高橋：とにかく、総合計画の見直しという市民との協働のチャンスを盛岡市が見逃すか、それとも生かすか、注目している。

齋藤：「環境」は「文化」とともに行政と一緒に取り組みやすい分野だ。都市計画は難しいが、日常の生活に関わっている部分でもあるのでとっつきやすい。

高橋：市民も行政も市民参加に慣れていないという場合、取り組みやすい分野から行政が声をかけていき、事業も行う。（例：省エネなど）行政や市民が意見を出し合い、それから、一般的な条例をつくる。

齋藤：みちのくミステリー映画祭も、市の周辺に車を置いてそこから公共交通機関を利用して集まるところまで行って、初めて成功したと言える。

高橋：そういった社会実験をどんどん行うべき。イベントを限られた期間、人でやってしまうので、展望がないと厳しい。（例：渋滞がひどい）

齋藤：イベントは時間をかけて、みんなに広報してからやるべきなのに、ただやるということで終わっている。

高橋：齋藤さんは、盛岡市の行革推進会議に参加されているが、現在どうなっているのか伺いたい。

齋藤：専門部会の行革推進会議が年に数回ある。もっと回数を増やしてほしいと盛岡市に要求した。委員に情報と場所を提供してほしいと言った。

高橋：ところで、市民参加というと、審議会への参加が良く挙げられるが、果たして審議会は市民参加の場として適切なのだろうか。私もいくつかの審議会に参加しているが、なかには事務局が資料を読み上げ、委員は各自意見をバラバラに言って終わり、意見の集約ができていないと感じた。

齋藤：私も審議会はやりたくない。計画立案の段階で修正できるということで引き受けた。審議会では、民間との協働は行政サービスの向上になるのか討議した。

（例：公民館 やる気のない役人の運営より町内会に任せべき）

高橋：盛岡市では、なぜ行革を切り口にしているのか。市民と行政との協働をもっと全面に出すべきではないか。

齋藤：進め方が今までと違うものになればいい。

高橋：審議会への参加では、本当の市民参加までにはっていない。むしろ地域で頑張っている盛岡市の市民活動の団体への支援をするべき。

司会：社会の中で多様な声をどうやって引き出せばいいのか。

高橋：それがまさに環境パートナーシップ組織の活動である。環境教育などの教材を使って、取り組んで行くのも手だ。そういった教材を作っていく際に学生、教員、学者、自治体、環境パートナーシップ組織などを一緒に作って行くと呼びかけて行く。岩手県の地球温暖化防止推進計画の課題がある。県は2010年までに90年比の8%削減と言っているが、実際にはCo2は3.3%増えた。これから11.3%減らさないといけない。家庭環境家計簿を配ったが効果がない。個々の市民や事業者呼びかけて削減してもらうのはもう限界だ。



斎藤：被害者だと思っている人が加害者だ。ペットボトルを買わないなど、もともと断たないと意味がない。1970年代までのライフスタイルに戻せばゴミの量が減ると言われている。不便な生活が人間にとっていいものなのだと、ドイツでは子供の頃から教えられている。(例：車を減らすために、車社会は不便にしてしまう、車に乗っているのは格好悪いなどのブームをつくる。)環境税は県民からでなく東京からとるべきだ。岩手は森林が多いので、国内のCO2排出権取り引きをしてもらうべきだ。

高橋：「不便さを享受する」とよく言われるが、このような生活になれる人は少ないのではないかな？

斎藤：CO2の削減は70年代くらいのライフスタイルに戻せば達成可能だと言われている。スーパーでひとつひとつ包装しているとか、買い物かごを持ち歩くなど細かい違いがあるだけだ。盛岡でもスーパーで包装を何割かやめるなどを条例にすればいいのでは。

高橋：長野市や水俣市では環境パートナーシップ組織と大手スーパーが市長や市議会議長の立ち会いのもとで協定を結んで、野菜などに使っているトレーを廃止するという取り組みをしている。行政が市民や事業者に対し、環境に配慮した活動と呼びかけるだけの「啓蒙・啓発的手法」には限界がある。長野や水俣のように、環境保全に関心のない一般の市民も否応なく巻き込むような「システム(仕組み)の変革」をやらなければ駄目だ。

斎藤：ドイツのフライブルクで学生がコップをぶら下げて歩いているのは格好いい。

高橋：メーカーと提携して買い物袋、マイバックを作るとか、家電製品の省エネ表示を県と一緒にマークを作るとか、低公害車の助成制度を手厚くしてみるとかやりこはたくさんある。

斎藤：専門家(議員)の役割は重要だ。

高橋：市民参加条例など、市民にとって有効な条例は何かというのは、行政は言わない。市民も気付かない。行政への市民参加が進むと、むしろ議会は重要なものになる。市民参加で計画をつくったといっても、参加した市民は全体から見ればごく少数でしかない。こうした少数の市民の意見を強く反映した計画を一般の市民の視点から見直し、場合によっては修正するのが、有権者から選ばれた議会の役割だ。

ところで、斎藤さんが市長選の際に提案した「プロジェクトM」という組織は非常に面白い。市民や事業者、行政職員、さらに議員も自由に参加して「市民会議」あるいは「市民委員会」をつくり、自分の関心のある専門部会に参加し、メンバー同士議論をかわしながら政策提案をまとめていくというやり方は、既にいくつもの都市で試みられている。ただし、人口20万人以上の都市では瀬成功例がない。

司会：広報誌などは読まれていないと言う実態もある。

高橋：これといった広報誌はない。WEBにアクセスする人も少数。そうすると広報を総動員させるしかない。

斎藤：キャンドルナイトのように、個人が何か2つ3つに取り組むだけでいい。使わない時にコンセントを抜くのも、習慣化すれば何でもない。みんなで環境に取り組んでもできることはほとんどない、というアンケート回答もある。

高橋：コンセントを抜く等の取り組みも、岩手県で行っても、CO2排出量の削減は東京に比べたら数百分の一くらいにしかならないかもしれない。それなら東京は何をやって

いるのか。それを考えると岩手で8%減とか10%減とか目標にしてもせつない。

斎藤：せつなくてもそういうところから取り組まなくては。ペットボトルをやめた業者がいるのに、それが大きく話題にならないというのは残念だ。

司会：企業の取り組みは進んでいると言われているが、どう見るか。

斎藤：一部では進んでいるのだが、本当に取り組んでいるのは少ない。

高橋：グリーン購入といっても、看板倒れという場合もある。ISOを導入していても、内部的な取り組みにとどまり、環境報告書を出さないなど、企業の環境情報の公開という点で課題を残しているところも多い。

斎藤：話が変わるが、人は損得やかっこうよさで動く。楽しいと思わせるのは、仕掛け人、商売人にしかできない。専門家ではできない。「エコライフは得だ、格好いい、ゲームのように楽しい」と思わせると自然と環境に関心を持つようになる。8割の人を動かすために、商売人は儲かると思ったらどんな努力もするが、それで商店街が活性化できないか。そういったことを盛岡で話し合っ、取り組んで行けるような場はあるのか？実際に市民がそういった場をつくっていているのか？それともパートナーシップの中で取り組んでいこうとしているのか？そういうプロジェクトをつくる場が盛岡市にあればいいのだが。ただ、行政を巻き込んでいかないといけない。そうでないとパートナーシップではなく単なるNPOになってしまう。

高橋：市民参加条例では重要な条例をつくる際に市民参加手法(パブリック・コメント手続、審議会、市民会議、ワークショップ、住民投票など)の実施を義務づけている。議会も承認して、ある程度最低ラインを条例化するべき。

斎藤：条例をつくっておかないと、個々に取り組んでも意味がないのか？

高橋：もちろん、個々の参加・協働の取り組みは不可欠。しかし、個々の取り組みだけでは、例えば、担当者がかわったり、市長がかわったりした場合、せっかくの参加や協働が継続しないおそれがある。また行政内部でも部局によって、参加・協働に対し温度差がある。このような状況から脱却し、参加や協働を継続して行うためにも、条例というかたちで制度化しておくことが必要である。ところで、条例で参加・協働の仕組みをつくるといっても、市民参加条例や市民活動支援条例(市民協働条例)、個別分野の基本条例や自治基本条例などのさまざまなツールがある。最近、自治基本条例をつくる自治体が増えてきているが、個々の参加・協働条例が充実していないのに抽象的・理念的な自治基本条例をつくる結果、結局何も変わらないという事態が生まれている。むしろ市民参加条例や市民協働条例、まちづくり条例など個々の参加の仕組みをきちんと整備した後で、全体の見直しをつけるために自治基本条例をつくるという流れが望ましい。市民参加といった場合、行政への参加もあれば市民活動への参加もある。市民参加条例、自治基本条例、まちづくり条例など色々なものがある。たくさんあってわかりづらいので、参加最終的に自治基本条例というものがあるので、細かくは各条例を見よというふうにすればいい。実際には自治基本条例をつくって、それで終わりという場合は多い。



開催日：11月7日 10：00～16：00

場 所：岩手県庁舎第二分庁舎

地球温暖化防止への協働による取り組みについて（第1分科会）

1. 県民との協働を考える会と政策についての説明

「県民との協働を考える会」は、県民・企業・行政との関わる部分いわゆる協働の場を広げていくことで、それぞれが同じテーブルにつき共に考え、理解を深めることである。県では、「環境家計簿」でライフスタイルチェック、「岩手県地球温暖化防止県民行動計画」で家庭・事業所における省エネ・省資源の推進をしてきた。地球温暖化問題への対策としてCO2排出量を1990年を基準に2010年まで8%削減を目標に掲げているが2001年で3.3%の増加傾向である。目標達成に向けて県民・企業・行政が一丸となり取り組まなければならない。

2. 「県民との協働を考える会」で出された意見(主なものを抜粋)

1) CO2削減方法、考え方について

公共交通機関

- \* アイドリングストップの社会システム化
- \* 公共交通機関の利用拡大を図るために共通チケットの利用推進
- \* 低公害車の普及・駐車場の割引優遇
- \* バイオカーの開発の推進

\* 自転車優先道路の整備

企業・小売店

- \* 深夜営業の自粛
- \* 簡易包装にメリット
- \* 事業者エコショップ認定制度の普及
- \* 自販機の縮小

その他

- \* 資源の再利用の徹底
- \* 環境教育の推進
- \* ごみ減量に報奨金
- \* 雪の活用
- \* 新エネルギーの利用促進

2) 個人の取り組みを全体に広げるにはどうすればよいか

- \* 環境の取り組みをするために、まずそれぞれのスタンスで努力をすることも大切。
- \* 削減・温暖化防止が見えてくる社会の仕組みづくりに変える必要がある。
- \* エコライフなど、個人のレベルから楽しくアイデアを出し合い集団のレベルへつなげる取り組みをしよう。

所感

「県民との協働を考える会」の話し合いが政策実現の場、より具体的に反映されることが重要であると思う。

(副代表理事 渡辺 彰子)

100万人のキャンドルナイトinいわてのご報告

田村 みどり

1. 100万人の肴町フリマ大作戦 10月17日 11月14日

冬に向かうある日、あったかいコーヒーをのみなながら、数組の出店者のご協力で、フリーマーケットを行いました。

斎藤純さんからの提供品もあり、バラエティーにとんだ商品。一人暮らしのおとうさん(?)がとても楽しそうに値切ったり、やり取りして面白かったです。岩手大学の学生さんがお手伝いしてくださりました。

2. 埴輪や縄文土器でキャンドルスタンドを作ろう!

10月11日 11月28日

盛岡からすこし離れた滝沢村。滝沢村埋蔵文化財センターに、「こういうことをやるのですが・・・」とご相談しましたら、とても興味を持っていただき、そして全面協力を得、無事40個くらい出来上がり。

いろいろ個性あふれる「はにわちゃん」、縄文土器の方も、がんばりました。当日ステージに飾る予定です。

3. キャンドルづくり 11月27日

肴町ホットラインの「まちなか来ぶらり」で、この趣旨に賛同して下さった岩手大学プレ美術部の方々にいろいろなるうそくを作ってもらいました。

自然素材の木と、紙を張ったもの(色付けもして。かわゆい灯籠に灯がともり・・・とてもいい雰囲気でした。当日プラザおでつで、「オブジェ」としてを飾ります。みなさん力

作ぞろいです。

(実行委員長 田村 みどり)

今後の予定

●キャンドルナイト・オリジナルソングコンテスト

日時：2004年12月19日(日) 18：30～21：00

場所：盛岡市 プラザおでつ ホール

(公開審査)

内容：1部 エントリーバンドによる  
ソングコンテスト

2部 松本哲也ミニライブ

入場料：大人1,000円 高校生以下700円



●100万人キャンドルナイトinいわて

日時：2004年12月20日(月) 18：00～21：00 入場無料

場所：盛岡市 プラザおでつ

おでつ広場

- \* 冬の屋台(フユヤタ)
- おでん・やきとり・かぼちゃのひつまみ・甘酒・熱燗・その他

おでつホール

- \* 環境活動事例発表
- \* キャンドルトーク  
(斎藤純 × 渡辺彰子)
- \* スローライフの紹介
- \* アコースティックライブ

ギャラリー

- \* 地球温暖化防止パネル&省エネグッズ展示
- \* キャンドル芸術家大集合
- \* アートキャンドル・キャンドルスタンドづくり





## お知らせ

### 市民提案プロジェクト 第2回リーダー養成講座 『市民参加のためのファシリテーター養成講座』

目的：地球環境について、行政と住民と事業者がパートナーシップを組んで施策立案から実行、評価まで進めていくための手法を学び、それらを推進する能力を持つ人物を育成する。

日時：平成17年1月8日(土)・9日(日) 10時～17時

会場：岩手大学教育学部2号館1階165号室

講師：森良氏 (ECOM エコ・コミュニケーションセンター代表)

<http://www12.ocn.ne.jp/~ecom/>

対象：環境パートナーシップいわて会員他ファシリテーターを将来やってみみたい方20名

受講料：無料 (ただしテキスト代1,575円。お持ちの方はご持参ください)

テキスト 森良著『コミュニティ・エンパワーメント一学びから参加へ』

準備品：昼食 (近くにコンビニがあります)、宿泊は各自をお願いします。

当日連絡先：070-6613-4043 (梶原) E-mail kajipa@pdx.ne.jp

申込・問合せ：NPO法人環境パートナーシップいわて事務局

内容：

1日目 1月8日(土) 10時～17時

市民参加のプロセスデザインを企画し評価しあう

2日目 1月9日(日) 10時～17時

ワークショップを企画しファシリテーション実習を行う

### 環境パートナーシップいわての集い

日時：平成17年3月5日(土)・6日(日)

会場：国立岩手山青年の家 (テンパーク)

内容：市民提案プロジェクト「環境パートナーシップについて考える」など

昨年の様子



ワークショップでは、情報委員会、市民提案プロジェクトなど7班に分かれて現状と課題、将来の方向性について話し合いました。

夕方からの交流会では、ワークショップの報告、活動に参加しての感想を述べ合うなどして交流しました。



### いわてこどもエコクラブネットワーク冬の交流会

『スノータウンをつくらう2005』

日時：平成17年1月29日(土)・30日(日)

場所：ブナの森自然塾さそう館 (湯田町左草小学校)

湯田町左草1-113-11

廃校を利用した自然学校です。

料金：4,000円 (保険料、食事、宿泊費、寝具代、暖房料込み)

湯田町教育委員会内「ブナの森 自然塾さそう館」は、2002年7月8日にオープンした廃校を利用した自然学校です。

活動内容は、小学生～大人の団体を目的とした体験学習 (自然探索・農林業体験・木工・陶芸・ガラス彫絵・絵画など) や研修などです。

ぜひ参加してね！こどもエコクラブに登録していない人も参加できます。詳しくはいわてこどもエコクラブ・ネットワークのホームページ (<http://junior-eco.soc.or.jp/>) を見てね！

いわてこどもエコクラブとは？

<http://www.pref.iwate.jp/%7Ehp0315/ecoclub/indexeco.htm>

いわてこどもエコクラブ・ネットワークとは？

[http://junior-eco.soc.or.jp/otona/about\\_ijecn.html](http://junior-eco.soc.or.jp/otona/about_ijecn.html)

こどもエコクラブとは？入会するには？

<http://www.env.go.jp/kids/ecoclub/>



#### エコショップって何？

環境パートナーシップいわてでは県、市町村で構成する「ごみ減量化・リサイクルの促進に向けた研究会」への提案を行い、その結果エコショップいわて認定制度として県、市町村と協働で実施することになりました。エコショップは、ごみの減量化やリサイクルに積極的に取り組むお店です。認定店には、認定証と認定プレートが贈られ、環境に配慮しているお店としての姿勢をアピールすることができます。県などにおいても、認定店の情報を広くPRし利用を推奨します。

#### エコショップになるためには・・・

「エコショップ認定申請書」を関係資料とともに「環境パートナーシップいわて事務局」に提出してください。審査の後、環境パートナーシップいわて代表、知事、市町村長 (一部市町村を除く。) が連名で認定します。

認定には、次のような取組みが必要ですよ。

- ごみの減量化やリサイクルの促進のための取組計画が作成されていること。
- 取組計画に、取組基本項目の中で実施可能な項目のうち、1/3以上を取組項目として定めていること。
- 取組計画に沿って取組みが行われていること。
- 取組みの結果について、自ら評価が行われていること。

#### 取組基本項目取組み例

##### 1 ごみの減量化

- 1 包装紙の簡素化等 贈答品の簡易包装の呼びかけなど
- 2 買い物袋の持参促進 ポイント制、レジ袋有料化 など
- 3 替替商品の販売 販売コーナーの設置・表示 など
- 4 商品の量り売り・バラ売り
- 5 買い物かごのレンタル

##### 2 リサイクルの促進

- 6 資源物の回収促進 トレイ・牛乳パック・ペットボトル・電池等の回収、回収後の状況
- 7 再生商品の販売 リサイクル製品の販売コーナーの設置、エコマーク商品等の販売促進
- 8 再生製品の使用 包装用のトレイや包装紙、レジ袋等に再生製品を使用 など
- 9 広告チラシ等に再生紙を利用

##### 3 小売店の排出抑制

- 10 店舗から発生する商業物の分別リサイクル 生ゴミの減量・堆肥化、ダンボールや古紙のリサイクル など
- 11 その他ごみの排出抑制への取組み ISO14001やIESOの取得 など

##### 4 3Rの普及

- 12 消費者への3Rの呼びかけ 店内放送、ポスター等の掲示など

##### 5 その他

- 13 ガレージセールへの場所の提供、フリーマーケットの企画実施など

☆制度に関するご質問はこちらまでお願いします。

NPO「環境パートナーシップいわて」(019-621-1890)

または県庁資源循環推進課 (019-629-5367)

☆認定申請のためのご相談、認定申請書様式の送付希望、認定申請書の作成方法、認定申請書の提出先は、・・・

NPO「環境パートナーシップいわて」

020-0883 盛岡市志家町10-2 Tel 019-621-1890 Fax 019-653-6888 Email eco@isop.ne.jp

エコショップいわて認定制度 参加店募集!





## 会員活動だより ～雫石 環境パートナーシップ～

### 日々模索 雫石 環境パートナーシップの180日

見たことも触ったこともない二酸化炭素つまりCO2。みんなに嫌われてかわいそう。地球を暖める効果があるからよくない。何とか増やさないように努力すべき、というので全国3,000余の自治体に協議会をつくって町民・企業・行政みんな力を合わせて温暖化防止のために頑張ってくれ、との環境省の掛け声である。そんなことならアツというまに日本中協議会だらけ……と思いきや、そうはいかないところが不思議なところだ。今のところ全国でたったの40弱。

われわれは、町内の有志が町内の有志に呼びかけて5月末に発足した。名前も協議会ではオモシロくない、というのでパートナーシップとなった。

当初の会員はざっと30名。なかには役場の幹部クラスが数名、名を連ねているがいずれも個人の資格での参加だ。金の要る事業に、それならと言って町が金を出してくれるわけではない。

行政がリーダーシップを発揮して出来た協議会も全国には相当あるようだ。そこでは運営は?カネは? 調べてみたわけではないが、環境省の望む方向に進んでいるのかも知れない。

毎月1回、勉強会を重ねてきた我がパートナーシップだが、そろそろ何か本格的な事業を、と選びつつあるのが「雫石BDFプロジェクト」だ。①町内の休耕地で菜の花を栽培し、ディーゼル燃料を搾油する。②天ぷら油の廃油から同じくディーゼル燃料を精製する。いずれも

既に確立した技術であり、各地で実行に移されている。

雫石町にも多くの休耕地が存在するし、大手のホテルや旅館がある。採れたディーゼル燃料の使い道は町内にいくらでもある。

BDFとはバイオ・ディーゼル・フューエル(燃料)の略だが、このプロジェクトを実施することによって、放棄されたままだった田圃が“花々しく”生き返り景観の形成に役立つし、従来捨て去られていた天ぷら油の廃油が“廃”油ではなくなり、ディーゼルエンジンを動かす原動力となって再度のお役にたつ、というわけである。

町民の環境意識の向上にも繋がることを願いつつ、遠回りながらCO2の削減にいくらかでも寄与するに違いないこのプロジェクトを、我がパートナーシップの事業として推進していきたい。

と同時に、この事業を推進して行くなかで、われわれの事務局態勢の強化に努めていくつもりである。

(事務局長 木田 民雄)



2004年11月7日  
参加者100名で約200本の  
苗木を植林しました。環境  
フォーラムで演奏した盛岡市で  
活動している環境バンド、  
CryBabiesとSUPER  
SONICS!!も参加しました。

## 「第2回環境アイデアコンクール」のお知らせ

「環境アイデアコンクール」の締切りが迫ってきました。応募を検討されている方は、奮ってご応募ください!

- 意見提案、研究・実践活動**：1,600字程度でタイトルを明記ください。(手書きの場合は原稿用紙使用)
- アイデア作品**：作品(送付が難しい場合は写真)と作品の説明(A4サイズにタイトル、説明文を記載)で応募ください。

- 標語、カレンダー、ポスター**：カレンダーはA3版以内、ポスターはA2版以内のサイズで応募ください。  
○学校活動での作品の場合は、学校を通してお申し込みください。

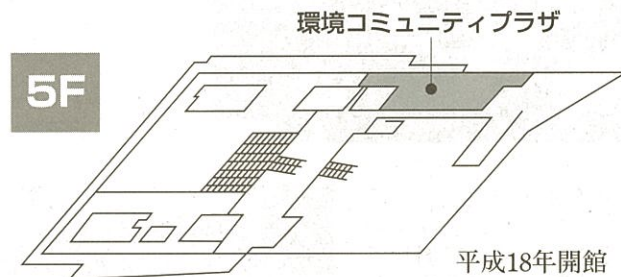
**募集期間** 平成16年10月1日～平成16年1月15日まで延ばしました  
**表彰** 環境パートナーシップいわての集い 平成17年3月5日  
※詳しくは、ホームページをご覧ください。

## ご存知ですか?盛岡駅西口複合施設(仮称)を建設中です

岩手県では、盛岡駅西口地区に、複合施設の整備を進めています。この施設は、県民のみなさんが、様々な形で集い、利用する県民交流・連携の拠点づくり、県民サービスの拠点づくり、県民活動の拠点づくりを目指しています。

各階は「知・楽・学」の三つの空間で構成されています。このうちの「楽」の空間(4～5階)に位置する**環境コミュニティプラザ**は、環境に関する展示、相談、情報、学習、交流機会の提供等を行う施設です。県民みんなで環境問題の解決に取り組む場として期待されています。

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp0215/>



## 編集後記

特定非営利活動法人環境パートナーシップいわてニューズレターの第1号をお届けします。法人化して組織、活動が一新されます。乞うご期待ください。ニューズレター7号において、2頁目の環境パートナーシップいわて設立総会の来賓祝辞の写真が逆になってました。お詫びして訂正申し上げます。皆様良いお年をお迎えください。

発行：特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて事務局  
020-0124 盛岡市厨川5-8-6  
TEL 019-643-8570 FAX 019-643-8571